

競技上の確認事項

- 1 競技は、2016年度（公財）日本バレーボール協会6人制競技規則による。
リベロ・プレーヤーは試合ごとに2名まで登録することができる。
- 2 開館時刻 7：50
- 3 試合開始の予定時刻を定めているが、第2試合以降は、予定した時刻より遅れることがあっても、早く開始されることはない。プロトコール開始は、プログラム記載時刻の11分前とする。
各試合とも、10分の合同練習（パス程度）後、プロトコールに入る。なお、当該チームの試合が連続してしまう場合は、前の試合が2セットで終了した場合は最大15分間、3セットの場合は最大20分間空けて、プロトコールに入る。
- 4 第1試合の前の練習は、コート設営が完了し、コート係の許可が出てから自由にコートを使って練習できる。ただし、ネット越しのプレーは禁ずる。
- 5 開始式前、フロアでの練習を認める。ただし、ボールを使用しないアップのみとする。
- 6 公式練習は6分間とする。合同で公式練習を実施しない場合は、各チーム3分間とする。
- 7 ベンチ及びフロアには有効に登録された監督、コーチ、マネージャー及び選手以外は入ることができない。ただし、プロトコール前は、当該校の中学生の入場も認める。
- 8 監督、コーチ、マネージャーマークは、左胸部につけること。チームキャプテンは、胸の番号の下に規定のマークを付けること。
- 9 スタッフ（監督・コーチ）は、統一された服装でベンチに入ること。また、マナーについては十分留意すること。
- 10 エントリー確認用紙を監督会議の時に提出すること。これ以外の変更は、いかなる場合も一切認めない。教職員外のコーチの変更がある場合、新たな「学校教職員外コーチ承認願」を提出すること。
- 11 開会式に参加する選手は、12名以内とし、統一したユニフォームを着用すること。
（マネージャーの参加も認める）
- 12 1日目の第1試合の生徒役員は、各コート第3試合のチームから線審（4名）を出すこととする。1日目の第2試合以降は、敗者チームから線審（4名）を出すこととする。2日目のすべての試合の生徒役員は、盛岡地区の生徒で行う。

審判上の確認事項

- 1 本大会は、2016年度（公財）日本バレーボール協会6人制競技規則に準じる。
リベロ・プレーヤーは試合ごとに2名まで登録することができる。
- 2 各コートには、ウォーム・アップエリアを設ける。ただし、エリア内でのボールの使用は禁止する。
- 3 セット間は、フリー・ゾーンでのボールの使用を認めるが、隣のコートの妨げにならないように注意し、パス程度とする。
- 4 スポーツマンとしてふさわしくない行為はしないこと
（相手チームに向かってのガッツポーズ等）。
- 5 いかなる場合でも、試合を遅らせることのないように注意する。また、コート上の選手がベンチのスタッフや交代競技者ともタッチ（ハイタッチなど）を行わないこと。
- 6 タイムアウトの要求は、ベンチから立ち上がりコールしながらオフィシャルハンドシグナルを明確にして示すこと。
- 7 サブスティチューションは、ナンバーカードを用いてのクイックサブスティチューションで行う。
- 8 ゲーム中のワイピングは、原則としてコート内の選手が行う。コート内の選手で対処しきれない場合に備えて、控えメンバーもしくはその他の部員からクイックモップパー（2名以内）を待機させることができる。
- 9 リベロとの交代については、サイドライン上でいったん立ち止まってから交代すること。
- 10 WTO（給水のためのタイムアウト）を全試合で採用する。